

令和2年度  
第2回甲賀市地域公共交通活性化協議会 議事録

---

1. 日時：令和3年2月17日（水） 14：00 ～ 14：55

2. 場所：水口中央公民館 1F 鹿深ホール

3. 出席者：(別紙名簿のとおり)

委員数31名 … 出席者27名 欠席者4名

4. 総 会

(1) 挨拶

(2) 委員紹介

(3) 議 事

報告事項

報告第1号 委員の選出および変更について

報告第2号 令和2年度事業進捗について

報告第3号 近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会の進捗について

5. その他

甲賀市公共交通連携時刻表の作成について

6. 閉 会

## 7. 議事の会議 概要

### 【開 会】事務局

1. あいさつ (会長)
2. 委員紹介 (座席表により省略)
3. 議 事

事務局：本日は、委員31名中27名のご出席をいただいております。

当協議会設置要綱第7条第2項に、会議の成立要件として「委員の半数以上の出席」となっており、これを満たしていることをご報告いたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

当協議会設置要綱第7条第1項の規定では、会長が議長を行うこととなっておりますことから会長により議事進行を行っていただきます。それでは、会長よろしく申し上げます。

### 協議事項

#### 報告第1号 委員の選出および変更について

議 長：それでは、委員の選出および変更について説明を事務局よりお願いします。

事務局：委員の選出および変更について説明。(P 2、3)

議 長：ただいま説明のありました報告第1号について、ご意見、ご質問等あればお伺いします。

(意見なし)

議 長：ご意見もないようですので、新たにご選出をさせていただきました皆様におかれましては、お忙しいところ恐れ入りますが、本協議会運営につきましてご協力をよろしく申し上げます。

#### 報告第2号 令和2年度事業進捗について

議 長：それでは、令和2年度事業進捗について説明を事務局よりお願いします。

事務局：令和2年度事業進捗について説明。(P 4、5) (別冊資料1、2)

議 長：ただいま説明のありました報告第2号について、ご意見、ご質問等あればお伺いします。

委 員：市民意識調査結果の利用状況について、甲賀市コミュニティバスやコミュニティタクシーをどちらも利用したことないという回答が68.6%となっておりますが、この数字についてはどのような原因があると調べられていますか。

事務局：こちらの結果がでたのがまだこの2月ですので、これから詳しい所を分析していきたいと思っております。

(他、意見なし)

議 長：ご指摘のありました点について、私も非常に低いという印象です。利用される方は毎日のように利用されるが、特にこの辺りはマイカーが非常に普及してい

ますので、利用しない方は全く利用しないということが顕著に表れていると思います。また、それ以外にパークアンドライドを市としても更に推進していかなければならないと思っています。特に、アンケート結果につきましては、厳しい結果でございます。十分に分析をして市の施策に反映できるようにさせていただきます。

### 報告第3号 近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会の進捗について

議長：それでは、近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会の進捗について説明を事務局よりお願いします。

事務局：近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会の進捗について説明。(P6)

議長：ただいま説明のありました報告第3号について、ご意見、ご質問等あればお伺いします。

委員：一バス事業者として、近江鉄道についてなかなか意見を言う機会がなかった。この貴重な時間に、特に、甲賀市さんは生活交通に対して大変熱心で、住民の方に応えるべくがんばっていただけるということで、近江鉄道に対してもなんとかがんばってほしいというお願いをします。大原則として、生活交通は公共財であり、収益事業に馴染まない。したがって、官民一体となって公共財である生活交通を支えていく。特に、今後はそういう視点で日本の生活交通が守られていかなければならない。しかし、官民一体となって生活交通を維持する限り、官はそこに税金を投入するという事は、将来にわたって子や孫に大きなつけを残すことになる。この部分の議論があまりなされていない。今簡単に6億4千万とおっしゃいましたが、沿線住民はなぜ6億4千万なのか全然わかっていない。本当に近江鉄道さんの財務内容をきっちり精査されてやられたのか。最初から存続ありきで数字が出て支援するという事ならすぐ問題です。だから、税金をどれだけ投入するかについてはもっと議論していただきたい。移動分担率をみると、鉄道で移動する人は10何%で、先程コミバスの2割3割と説明がありましたが、その三分の一です。そこへ税金を投入するわけです。だから一番大事な部分として今後近江鉄道に乗る人は増えない。この部分について本当に議論されているのか。数字だけでなく、近江鉄道はそれぞれの街の核でもあります。街づくりという視点もありますが、税金を投入する以上もっとしっかりと議論を甲賀市さんやっていただきたい。特に、まだ中に隠れている部分がある。6億4千万というような数字ではない。私は、他の事業にも関与してまして、芹川、犬上川、宇曾川、愛知川、桜川、日野川、佐和山トンネルそして清水山トンネル、これら最も大きな施設を最近もっと精査しようと思い専門家に計算してもらったところ600億です。佐和山トンネルは90年に作られ一番新しい。他の施設は全部120年経っている。近江鉄道さんで努力して保線管理されていますが、120年経ったものを使っていて常識的に考えていつ壊れてもおかしくない。この600億どうするつもりですか。6

億4千万程度ではない。もし激甚災害が起こったら、平時でトンネルが崩れたら、平時で橋が傾いたらどうするつもりですか。業務上、耐震調査・耐水の調査・耐風の調査だけはやらなければならないが、この資料に全くない。もし平時に事故が起きた時、国庫補助ありますか。どこにも担保ない。しかも耐震調査も耐水の調査も何もしていないなら、業務上過失で一発で行政がやられる。これは犯罪です。このような議論を飛ばしてなぜこのような数字がでてくるのかわからない。もう一つは、これらの施設は民間企業で考えたら償却資産にあたる。民間企業は、償却資産で浮いたキャッシュフローを次の更新に備えて積み立てるか、他の事業に投資し、財務体質をしっかりと次の更新に備える。蓋開けたらなにも金がない。どこへ行ったのか。まさかここ10年、20年の赤字で全部飛んでしまったのか。そんな乱暴な議論はない。つまり、近江鉄道さんの財務の内容について誰も調査していない。このような税金の投入は絶対にいけない。繰り返すと、生活交通を官民一体となってやるのは確実にそうあるべきだが、私達の時代に大きな税金を投入する限り、我々がしっかりとした議論をしないと、これは関係者の不作為です。このようなことがあってはならない。特に生活交通に熱心な甲賀市さんは、沿線のあり方をしっかりとやって、しかもそのような情報をきちんと住民に開示してもらわないといけない。私達の声が全然届いていない。したがって甲賀市さん、沿線の住民や事業者も心配している。あらゆる安全安心のための情報をもっと開示していただく、それ以前にもっと議論していただく、ということをお願いしておきたい。

議長：甲賀市は、上下分離をした経験もありますので、これからの議論にしっかりと意見を反映させていきたいと思います。他に意見はございますか。

(他、意見なし)

議長：ご意見もないようですので、これで全ての案件について協議を終了します。定刻にもなりましたので、事務局へお返しします。

事務局より、令和3年4月1日改正時刻表の作成について説明。(P7)

事務局：全ての案件について無事に終了しました。長時間に渡り熱心にご協議していただき、また色々な貴重なご意見をいただきありがとうございました。閉会にあたりまして、副会長より閉会のあいさつをお願いいたします。それでは、副会長よろしく申し上げます。

4. あいさつ (副会長)

【閉会】事務局